Chocolat 通 信 2012.4月号

K'mio talks

植木を植え替えて考えたこと

前回の通信で、「漬け物」の例を出しました。各々が自分の脳みその中に漬け込んで醸造するのを待つ。これからもう一段階進まなければなりません。個々が全体になっていく、ということです。

先日ネコにひっくり返された植木を植え替えました。その時に思ったことは「何て根が複雑に絡んでいることか！」と思ったことです。そこから一本の幹になり、そして枝葉を広げていく・・・「合唱」と同じだな、と思いました。そして根の一本一本が力強ければ力強い程、幹や、枝葉もしっかりと伸びていく。指揮者の役割はいわば「水」あるいは「肥料」の様なもの。伸びていこうとすることに対して、手助けをすることしか出来ません。植木を植え替えていて、そんなことを考えました。　　(Noboru Kamio)

佐々木 団長の　**断腸の思い**

花鳥風月

街を歩くと色とりどりの花が咲いており、ようやく春を迎えたことを実感いたします。

花は歌の題材としてもよく使われるのはご存じのとおりで、ショコラでは花に関する曲として新実徳英さんの『花に寄せて』を２回演奏会で取り上げています。チャリティーで演奏する曲の中では“音楽会の菫”に菫の花が登場します。自然の美しい風景や、自然を相手に詩や絵画を作る遊び、風流のことを古来「花鳥風月」と言いますが、合唱曲の中にもよく「花鳥風月」が登場してきますね。『野菜サラダ物語』では「風」をテーマとした曲が多く、「鳥」も登場します。「聞こえる」では「鳥」と「花」が入っています。これらの言葉は自然の象徴として用いられ、詩には欠かせないもののようです。今練習中の曲の中で「月」は登場してきていませんが、もちろん「月光とピエロ」のように「月」がタイトルの曲もあります。皆さんも「花鳥風月」を曲の中に見つけたら、何を象徴しているか考えてみると面白いと思います。　　(佐々木 晋)

わたしの先生

あなたにとっての≪先生≫は誰ですか。恩師、先輩・後輩・父母・知人、ふと出会った市井の人、あるいは物語に登場する架空の人物、遠い人・近い人…。あなたが人生で出会い、大切な何かを残してくれた人（時に半面教師だったとしても…）。そんな≪わたしの先生≫について寄稿して頂くシリーズです。

里山に旋風を起こした台風先生　　ソプラノ　**中野 栄子**

当時子供たちは季節毎に遊びが明確でした。景色同様のんびりと道端やお宮様で遊び、寝る頃には田圃で蛙がケロケロ鳴いていました。そんな長閑な里山に都会からやってきた若い男の先生は新潟の片田舎に強烈なイメージを巻き起こしていきました。まるで台風の目のように。年一回お正月に集まる兄妹の話題に未だに出るほど。兄が２年間、私が小学４年生の１年間担当していただきました。先生は、学校と家庭との連絡帳などで親や地域の方たちも学校行事に参加せざるを得ない状況を作りだしたり、様々な工夫をしました。例えばマカレンコ体操と呼ばれるマット運動や集団体操（殆どの子供が逆立ち歩きが出来、バック転が出来るようになった)、相撲の番付に習った漢字書き取り番付表、歌で覚える県庁所在地など。さらに校歌の作曲、全校生徒の大合唱の指揮、ピアノもこなす。地元の教頭宅に下宿し、教育方針で問答をする等々。小柄ながらイケメンで背筋まっすぐ。カバンを少し揺らしながら歩く姿も颯爽として快活でした。昭和 39 年、震度７の新潟地震と東京オリンピックのあった年でした。その後先生は新潟市に転任されました。

年月は過ぎ私は上京。子供が通学した旧四谷第三小学校で新潟出身のママ友が出来、偶然にも彼女がその先生に教わったというのでしばし先生にまつわる懐かしい想い出話をしたのを覚えています。

パトリ真語

SOPRANO　阿部 紀世

≪詩・曲・歌い手が三位一体に≫

いま興味を持っている事があります。作詞家と作曲家のつながりについてです。私の好きな歌手・来生たかおは作詞家の姉とコンビを組みピアノの弾き語りスタイルで一つのドラマを作り出しています。

『野菜サラダ』の“通り雨”“夕なぎの海”の作詞家・関根栄一は子供の歌・歌曲・合唱曲と幅広く活躍しています。昭和 20 年頃ラジオの幼児番組から読むより、やさしい言葉で歌う作品として新しい童謡が世に広まりました。当時の作曲家、中田喜直・團伊玖磨らがまどみちお・サトウハチローといった詩人の作品に共鳴し作曲されたといわれています。関根栄一もその詩人の一人でした。詩と曲、そして歌い手が三位一体となって初めて聴く人に感動を与え、喜びにつながると思います。私たちも大いに詩を楽しみ、曲を自分の物にしていきましょう！

TENOR　佐々木 晋

≪音を今一度確認≫

５月 20 日のチャリティコンサートが近付いて来ましたので、まずは確実に暗譜をしましょう。音を誤って覚えていることもありますので今一度確認しながら復習をすることが大切です。

新しい曲については、常にバランスを考えながらハーモニーを作っていくことが求められますが、「美空ひばり作品集」ではメロディが色々なパートに入れ替わりますので、ここぞというときは遠慮せずに出していきましょう。

ALTO　金成 素子

≪「野菜サラダ」の暗譜は鼻歌で≫

今回のチャリティーコンサートにおいての一番の課題は、もちろん暗譜ですね。

私は、神尾先生のおっしゃっているように、詩の風景を描きながら歌詞を覚え、景山さんの音源を手がかりに譜を見ずに歌っています。とはいえ、なかなか思うようにはいきませんが…。「野菜サラダ物語」の曲は風景が思い描きやすく、夕食の用意をしながら、ウオーキングをしながら、鼻歌として歌っています。いつも手元に楽譜を置いて、確認するのも有効ですね。

一番の難関は「生きる」です。歌詞よりも、音が難しくて、楽譜を見ても間違えるので…。でも、この曲を完璧に歌うことができたら、階段を一つ上ることができるのではないかと思っています。アルトみんなで助け合って暗譜を完成させていきましょう。

BASS　古川 智久

≪前を見て歌える自信を≫

「野菜サラダ」については、基本は体に入っているはずなので、あとはそれを暗譜という条件のなかで表現できるか、自身との勝負だと思います。暗譜で不安になるのではなく、両手が空いた分自由な表現ができるとプラスにとらえていきましょう。ただ、練習回数が少なかった“夕なぎの海”や、歌詞が多い“さとうきび畑”は、楽譜を見返して復習するのも大事だと思います。

「空に、樹に…」は、強弱やフレーズのつなげ方といった繊細な表現がまだ不十分なので、練習でいわれたことを確実にできるようにしていきましょう。とはいえどの曲も、具体的な表現は神尾先生の指揮をしっかり見ていれば自然にできてくるはずなので、まずは楽譜を離れて前を見て歌える自信をつけていきましょう。

編集後記　2012. 4. 19

♪ 春が来た。先日、出先で鳥たちがどこからともなく舞い降りてきて、遊んでいるのを見かけた。シジュウカラや、また他の種類の鳥もいて、賑やかに飛び交い鳴き交わしていた。自宅の「ふしぎ！大図鑑」を見てみると、これは“混群”というのだそう。一つのむれのような形を作っている。なんだか“混声合唱”のようだなあと笑ってしまった。が、何といっても一つに纏まる人間の声は柔らかい！と感嘆することしきりだ。(三葉)

♫週末、会員になっているある文学館の友の会の総会に司会役で参加した。総会後の記念講演は女優・栗原小巻さんのトークと朗読だった。映画・舞台・テレビの出演作品の事、理事を務めている日中文化交流協会の話などを合間に交えながら林芙美子の短編と田辺聖子の随筆を朗読した。テキストの理解、鍛えられた発声、びんびんうったえかけてくる迫力に圧倒された。またトークの美しい日本語にも感動。今どきの若い女優さんにはこういう美しい話し方の出来る人がいなくなったなあ、なんていっちょまえの老人のような感慨にふけったのであった。(Kobo)